

症例

35歳の若い男性が、進行した結腸直腸がんを肝臓への転移を診断され、私の元に助けを求めて来た。彼は州立病院で化学療法を受けていたが、非常に衰弱しており、意識も混濁していた。病院からは余命3週間と宣告されていた。彼は雇用主に強制され、2回のファイザーワクチンを接種していた。ワクチン接種後に「ターボがん」と呼ばれる急速ながんの進行が起こったのではないかと私は疑っている。ワクチン接種前の彼は完全に健康だった。

私は彼にイベルメクチンと二酸化塩素の治療を行い、さらにビタミンD₃、K₂、ビタミンCを処方した。2週間後に彼の状態を確認したところ、彼の姉から、治療3日目には体調がかなり改善し、食欲が戻り、意識も正常に戻り始めたこと感謝の報告を受けた。彼は3週間後に仕事に復帰し、病院の医師たちはその奇跡的な回復に驚いていた。家族は私がイベルメクチンを使用したことを病院に伝えなかったため、私は当局から追及されずに済んだ。治療から3カ月後には、肝臓の腫瘍が13 cmから1 cmに縮小していたと聞き、彼が回復への道を歩んでいることに私は非常に喜びを感じた。

1年後に彼に再会したときには、病気の痕跡はまったくなく、非常に健康そうだった。私は彼の治療に二酸化塩素を追加した。

イベルメクチンは、胃がん、肝細胞がん、尿路がんの治療にも有効であることが確認され

ている。

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC795114/#fig20>



また、ミトコンドリア燃料であるアセチル-L-カルニチン (ALCAR) および抗酸化剤のN-アセチル-L-システイン (NAC) は、イベルメクチンによるがん細胞抑制効果を逆転させる可能性があるため、がん治療にイベルメクチンを使用する際にはこれらの物質の摂取を避けるべきだ。

血液がん 白血病の治療薬をスクリーニングするための実験では、イベルメクチンは低濃度で白血球細胞を優先的に殺し、正常な造血細胞には影響を与えなかった。

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/2064115>



子宮頸がん 子宮頸がんは最も一般的な婦人科悪性腫瘍の一つで、毎年約53万件の新規症例と27万件の死亡が報告されている。子宮頸がんの大部分はヒトパピローマウイルス (HPV) 感染によって引き起こされる。イベルメクチンは、Hela細胞 (子宮頸がん細胞) の増殖と移動を顕著に抑制し、アポトーシス (細胞自死) を促進することが確認されている。イベルメクチン介入後、Hela細胞の細胞周期はG1/S期で停止し、細胞はアポトーシスに関